

《世界株式型（為替ヘッジあり）》

運用実績 (平成28年3月末日現在)	過去1年				過去3年				過去5年				設定来			
	騰落率 (%)		△4.24		27.43		49.48		40.54							
運用方針	主に世界各国の株式に分散投資することにより、中長期的な成長を目指します。原則として、為替ヘッジを行います。MSCI KOKUSAI インデックス（円ヘッジ）を上回る投資成果を目指します。															
運用経過および今後の運用方針	当勘定では、主に世界各国の株式に分散投資を行うため、当期間中における資金移動および資産規模を勘案しながら、当社が選定した世界各国の株式を主要投資対象とする投資信託を組み合わせた運用を行いました。当該期間中、投資信託の投資比率は概ね高位を維持しました。今後も、引き続き複数の投資信託を組み合わせた運用を行う方針ですが、組入れ投資信託については継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行う方針です。															
組入れ投資信託 (平成28年3月末日現在)	ラッセル外国株式ファンドI-4A（為替ヘッジあり）（適格機関投資家限定）* インデックスファンド海外株式（ヘッジあり）															

《世界債券型》

運用実績 (平成28年3月末日現在)	過去1年				過去3年				過去5年				設定来			
	騰落率 (%)		△0.11		13.34		29.56		59.08							
運用方針	主に国内外の公社債に分散投資することにより、中長期的な成長を目指します。基本資産配分は国内公社債50%、海外公社債50%とします。海外公社債の投資部分に対し、原則として、為替ヘッジは行いません。NOMURA-BPI（総合）50%、シティ世界国債インデックス（除く日本）50%で加重平均した複合指数を上回る投資効果を目指します。															
運用経過および今後の運用方針	当勘定では、上記基本資産配分を概ね維持しながら、当社が選定した内外の公社債を主要投資対象とする投資信託を組み合わせた運用を行いました。当該期間中、投資信託の投資比率は概ね高位を維持しました。今後も、引き続き複数の投資信託を組み合わせた運用を行う方針ですが、組入れ投資信託については継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行う方針です。															
組入れ投資信託 (平成28年3月末日現在)	RIC Russell Global Bond Fund ^(注4) 、ラッセル日本債券ファンドI-1（適格機関投資家限定）* グローバル・ボンド・ファンドVA（適格機関投資家専用）*															

《金融市場型》

運用実績 (平成28年3月末日現在)	過去1年				過去3年				過去5年				設定来			
	騰落率 (%)		△0.07		△0.11		0.08		110.31							
運用方針	主に国内の公社債および短期金融商品に分散投資することにより、中長期的に安定した成長を目指します。NOMURA-BPI（総合短期）を上回る投資成果を目指します。															
運用経過および今後の運用方針	当勘定では、当社が選定した国内の公社債を主要投資対象とする投資信託を組み合わせた運用を行いました。当該期間中、投資信託の投資比率は概ね高位を維持しました。今後も、組入れ投資信託については継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行う方針です。															
組入れ投資信託 (平成28年3月末日現在)	フィデリティ・マネー・プールVA（適格機関投資家専用）*															

《グローバル・バランス型》

運用実績 (平成28年3月末日現在)	過去1年				過去3年				過去5年				設定来			
	騰落率 (%)		△6.06		31.96		62.92		79.78							
運用方針	主に世界各国の株式および公社債に分散投資することにより、中長期的な成長を目指します。基本資産配分は国内外株式50%、国内外公社債50%とします。基本的には為替ヘッジは行いません。ただし、市況動向等を勘案して、為替ヘッジを行うことがあります。（為替変動リスクがあります。）MSCI WORLD インデックス50%、シティ世界国債インデックス50%で加重平均した複合指数を上回る投資成果を目指します。															
運用経過および今後の運用方針	当勘定では、上記基本資産配分を概ね維持しながら、当社が選定した世界各国の株式および公社債を主要投資対象とする投資信託を組み合わせた運用を行いました。当該期間中、投資信託の投資比率は概ね高位を維持しました。今後も、引き続き複数の投資信託を組み合わせた運用を行う方針ですが、組入れ投資信託については継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行う方針です。															
組入れ投資信託 (平成28年3月末日現在)	(グローバル債券運用) RIC Russell Global Bond Fund ^(注4) 、グローバル・ボンド・ファンドVA（適格機関投資家専用）* (グローバル株式運用) RIC II Russell World Equity Fund ^(注4) 、グローバル成長株ファンド*															

(注1) バリュースタイル：割安株を中心に投資する運用スタイルをいいます。

(注2) グロース・スタイル：成長株を中心に投資する運用スタイルをいいます。

(注3) ※印は私募投信です。

(注4) 外国籍投資信託：海外で設定・運用されている投資信託をいい、英語で表記しています。

お問合せ窓口：カスタマーサービスセンター 0120-911-999

受付時間 月～金 9:00～19:00

土 9:00～17:00（日・祝日、12/30～1/4を除く）



redefining / standards

変額保険『リバティ（終身型）』『リバティ（有期型）』、ユニット・リンク保険（有期型）

平成27年度 特別勘定決算のお知らせ

1. 運用環境（平成27年4月～平成28年3月）

【日本株式市場】

日本株式市場は、下落しました。東証株価指数（TOPIX）は前期末比△12.70%下落の1,347.20ポイント（前期末は1,543.11ポイント）で終了しました。今期前半は、企業業績の拡大期待などから上昇基調で推移した後、中国景気の減速懸念などを背景に大幅に下落しました。今期後半は、補正予算・法人税減税などの先行きの政策期待などから一転上昇した後、急速な円高に加えて、10年国債利回りがマイナスとなったことで運用環境の悪化懸念が高まり、再び大幅に下落しました。期末にかけては原油価格の動向や各国の追加金融緩和を巡る思惑などから上昇基調で推移しましたが、前期末比較で下落して今期を終えました。業種別（東証33業種）では、主要企業の業績拡大期待が高まった「水産・農林業」（前期末比+29.63%）が最も上昇した一方、中国経済の減速により海上運賃市況が大幅に悪化した「海運業」（同△38.34%）が最も下落しました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、金利はマイナス圏まで低下しました。新発10年国債利回りは△0.05%となりました（前期末は0.40%）。今期前半は、欧米金利の上昇などにより金利は上昇（価格は下落）しましたが、米利上げ見送りや日銀の追加金融緩和への思惑などから、低下（価格は上昇）基調で推移しました。今期後半は、日銀のマイナス金利導入決定により急低下した後も、プラスの利回りを求めて超長期国債を買う動きが加速したことなどから、金利はマイナス圏まで低下して、今期を終えました。無担保コール翌日物金利は概ね0.0から0.1%近辺で推移していましたが、その後日銀が一部当座預金にマイナス金利を適用したことを受けて水準を切り下げ、概ね△0.02～0.01%近辺で推移しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、下落しました。NYダウは前期末比△0.51%下落の17,685.09ドル（前期末は17,776.12ドル）で終了しました。今期前半は、ギリシャ債務問題などから小幅な揉み合いで推移した後、中国景気の減速懸念などから大幅に下落しました。今期後半は、米大手金融企業の好決算などから大幅に上昇した後、中国景気の減速懸念などを背景に大幅に下落しましたが、先行きの米国での利上げペースが緩やかとの見方が強まったことなどから、一転、期初の水準近くまで値を戻して今期を終えました。欧州株式市場は、下落しました。概ね米国株式市場と同様の動きとなりましたが、今期後半は、中国株式や原油価格の下落などから大幅に下落した後、追加金融緩和観測などから上昇に転じましたが値を戻すまでには至らず、今期を終えました。市場別騰落率は、英FT100は前期末比△8.83%下落、仏CAC40は同△12.88%下落、独DAXは同△16.72%下落となりました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、金利は低下しました。米10年国債利回りは1.77%となりました（前期末は1.92%）。今期前半は、原油価格の上昇などから金利は上昇した後、米利上げ見送りなどから低下基調で推移しました。今期後半は、米利上げ観測などから上昇しましたが、米国や中国の景況感悪化などから大幅に低下して、今期を終えました。欧州債券市場は、金利は低下しました。独10年国債利回りは0.15%となりました（前期末は0.18%）。ギリシャ債務問題や欧州の追加金融緩和を巡る思惑などを背景に、概ね米国債券市場と同様の動きとなりました。FRB（米連邦準備制度理事会）は、FF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標を0.25%引き上げ、年0.25～0.50%としました。ECB（欧州中央銀行）は政策金利を0.05%引き下げ、年0.00%としました。

【外国為替市場】

外国為替市場は、円安が進行した後、揉み合いながらも円高圧力が高まり、前期末比較で円高となりました。米ドル／円相場では、前期末比7円49銭円高ドル安の1ドル＝112円68銭となりました。今期前半は、根強い米利上げ観測などから円安が進行した後は、中国経済の減速懸念などを背景に、揉み合いながらも急速に円高が進行しました。今期後半は、米国の利上げ観測などを背景に円安基調となった後円高に転じ、その後日銀によるマイナス金利導入決定などから一時円安となる場面もありましたが、米国での先行きの利上げペースが緩やかとの見方などから、急速に円高が進行して、今期を終えました。ユーロ／円相場は、前期末比2円62銭円高ユーロ安の1ユーロ＝127円70銭となりました。今期前半は、ユーロ圏のデフレ懸念が後退したことなどを背景に、円安が進行した後は、揉み合いで推移しました。今期後半も、ECBによる金融政策や日銀によるマイナス金利導入決定などから揉み合う展開となりましたが、英国のEU（欧州連合）脱退を巡る不透明感や独大手銀行の債券利払い懸念など欧州での信用不安が高まり、円高が進行しました。

2. 特別勘定資産の内訳（平成27年度末）

（単位：百万円、%）

区分	日本株式型		日本株式積極運用型		米国株式型		欧州株式型		世界株式型（為替ヘッジなし）	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
現預金・その他	998	4.0	89	4.3	728	4.1	151	4.0	105	4.2
株式	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
公社債	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外国株式	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外国公社債	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の証券	24,176	96.0	1,984	95.7	17,218	95.9	3,655	96.0	2,438	95.8
貸付金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	25,175	100.0	2,073	100.0	17,947	100.0	3,807	100.0	2,544	100.0

区分	世界株式型（為替ヘッジあり）		世界債券型		金融市場型		グローバル・バランス型	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
現預金・その他	32	4.4	398	4.0	607	7.9	1,184	4.5
株式	-	-	-	-	-	-	-	-
公社債	-	-	-	-	-	-	-	-
外国株式	-	-	-	-	-	-	-	-
外国公社債	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の証券	704	95.6	9,466	96.0	7,103	92.1	25,327	95.5
貸付金	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	736	100.0	9,864	100.0	7,711	100.0	26,511	100.0

(注) 金額は百万円未満を切り捨て。構成比は小数点第2位を四捨五入。

3. 特別勘定の運用収支状況（平成27年度末）

（単位：百万円）

区 分	日本株式型	日本株式 積極運用型	米国株式型	欧州株式型	世界株式型 (為替ヘッジなし)
	金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
利息配当金等収入	513	211	385	48	197
有価証券売却益	-	-	318	204	-
有価証券償還益	-	-	-	-	-
有価証券評価益	△ 3,263	△ 437	△ 2,120	△ 676	△ 468
為 替 差 益	-	-	-	-	-
その他の収益	-	-	-	-	-
有価証券売却損	-	-	-	-	-
有価証券償還損	-	-	-	-	-
有価証券評価損	-	-	-	-	-
為 替 差 損	-	-	-	-	-
その他の費用	-	-	-	-	-
収 支 差 額	△ 2,749	△ 226	△ 1,415	△ 422	△ 270

区 分	世界株式型 (為替ヘッジあり)	世界債券型	金融市場型	グローバル・ バランス型
	金 額	金 額	金 額	金 額
利息配当金等収入	42	45	-	325
有価証券売却益	-	-	-	687
有価証券償還益	-	-	-	-
有価証券評価益	△ 75	△ 10	△ 0	△ 2,713
為 替 差 益	-	-	-	-
その他の収益	-	-	-	-
有価証券売却損	-	-	-	-
有価証券償還損	-	-	-	-
有価証券評価損	-	-	-	-
為 替 差 損	-	-	-	-
その他の費用	-	-	-	-
収 支 差 額	△ 32	35	△ 0	△ 1,700

（注）金額は百万円未満を切り捨て。

4. 保有契約高（平成27年度末 /9勘定合計）

（単位：件、百万円）

項 目	件 数	金 額
変額保険（終身型）	53,344	447,238
変額保険（有期型）	702	3,385
ユニット・リンク保険（有期型）	10,239	43,068
積立ユニット・リンク保険特約	700	1,585
合 計	64,985	495,277

（注）金額は百万円未満を切り捨て。

5. 特別勘定の運用状況

◀日本株式型▶

運用実績 (平成28年3月末日現在)	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	△9.98	36.95	68.63
（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は昭和61年12月1日。				
運用方針	主に日本企業の株式に分散投資することにより、中長期的な成長を目指します。東証株価指数（TOPIX）を上回る投資成果を目指します。			
運用経過および今後の運用方針	当勘定では、主に日本企業の株式に分散投資を行うため、当期間中における資金移動および資産規模を勘案しながら、複数の投資信託を組み合わせた運用を行いました。当該期間中、投資信託の投資比率は概ね高位を維持し、マルチ・マネージャー運用の投資信託やバリュー・スタイル ^(注1) の投資信託を組み合わせる運用を行いました。今後も、引き続き、複数の投資信託を組み合わせた運用を行う方針ですが、組入れ投資信託については継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行う方針です。			
組入れ投資信託 (平成28年3月末日現在)	ラッセル日本株式ファンドI-3(適格機関投資家限定) ^(注3) 、(適格機関投資家向け私募)日本株バリューマルチマネージャーファンド [*] 、アムンディ・ターゲット・ジャパン・ファンド(適格機関投資家専用) [*]			

◀日本株式積極運用型▶

運用実績 (平成28年3月末日現在)	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	△9.97	33.77	63.03
（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成13年5月1日。				
運用方針	主に日本の成長企業の株式に分散投資することにより、中長期的な成長を目指します。東証株価指数（TOPIX）を上回る投資成果を目指します。			
運用経過および今後の運用方針	当勘定では、主に日本の成長企業の株式に分散投資を行うため、当期間中における資金移動および資産規模を勘案しながら、複数の投資信託を組み合わせた運用を行いました。当該期間中、投資信託の投資比率は概ね高位を維持し、グロース・スタイル ^(注2) の投資信託に投資しました。今後も、引き続き複数の投資信託を組み合わせた運用を行う方針ですが、組入れ投資信託については継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行う方針です。			
組入れ投資信託 (平成28年3月末日現在)	ピクテ・ニッポン・プレミア・グロース・ファンド(適格機関投資家専用) [*] 、フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3(適格機関投資家専用) [*]			

◀米国株式型▶

運用実績 (平成28年3月末日現在)	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	△7.78	54.86	103.76
（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は昭和61年12月1日。				
運用方針	主に米国企業の株式に分散投資することにより、中長期的な成長を目指します。原則として、為替ヘッジは行いません。S&P500指数を上回る投資成果を目指します。			
運用経過および今後の運用方針	当勘定では、主に米国企業の株式に分散投資を行うため、当期間中における資金移動および資産規模を勘案しながら、マルチ・マネージャー運用の投資信託を組み入れて運用を行いました。当該期間中、投資信託の投資比率は概ね高位を維持しました。今後も、引き続き、複数の投資信託を組み合わせた運用を行う方針ですが、組入れ投資信託については継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行う方針です。			
組入れ投資信託 (平成28年3月末日現在)	RIC Russell US Equity Fund ^(注4) 、米国株式インデックスファンドVA(適格機関投資家向け) [*]			

◀欧州株式型▶

運用実績 (平成28年3月末日現在)	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	△10.55	35.47	54.28
（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成11年4月1日。				
運用方針	主に欧州企業の株式に分散投資することにより、中長期的な成長を目指します。原則として、為替ヘッジは行いません。MSCIヨーロッパ指数を上回る投資成果を目指します。			
運用経過および今後の運用方針	当勘定では、主に欧州企業の株式に分散投資を行うため、当期間中における資金移動および資産規模を勘案しながら、マルチ・マネージャー運用の投資信託を組み入れて運用を行いました。当該期間中、投資信託の投資比率は概ね高位を維持しました。今後も、引き続き、複数の投資信託を組み合わせた運用を行う方針ですが、組入れ投資信託については継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行う方針です。			
組入れ投資信託 (平成28年3月末日現在)	RIC II Russell Pan European Equity Fund ^(注4) 、フィデリティ・欧州株・ファンド			

◀世界株式型（為替ヘッジなし）▶

運用実績 (平成28年3月末日現在)	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	△9.55	46.09	89.60
（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成13年5月1日。				
運用方針	主に世界各国の株式に分散投資することにより、中長期的な成長を目指します。原則として、為替ヘッジは行いません。MSCI KOKUSAI インデックスを上回る投資成果を目指します。			
運用経過および今後の運用方針	当勘定では、主に世界各国の株式に分散投資を行うため、当期間中における資金移動および資産規模を勘案しながら、当社が選定した世界各国の株式を主要投資対象とする投資信託を組み合わせた運用を行いました。当該期間中、投資信託の投資比率は概ね高位を維持しました。今後も、引き続き複数の投資信託を組み合わせた運用を行う方針ですが、組入れ投資信託については継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行う方針です。			
組入れ投資信託 (平成28年3月末日現在)	ラッセル外国株式ファンドI-4B(為替ヘッジなし)(適格機関投資家限定) [*] インデックスファンド海外株式(ヘッジなし)			